

労働新聞

社団法人労働新聞社
九五町南町平縣島福
次 藤 藤 伊 入 行 彦
一 港 吉 町 濱 名 小 縣 島 福

刊夕日四十二月六

一ヶ月 三十錢
一ヶ月 二十錢
一ヶ月 十錢
日曜祭日翌日休刊

取消
本紙六月廿二日付第二頁
六十四號掲載の(街の時)
欄に水野女學校に通つて
る女學生云々の記事は全
然別人であつて女學校の
迷惑を考慮し茲に之を取
消す。

常磐新聞社

地方名士
長所と短所

久保田 眞氏
(五十)

久保田眞院長で町醫學校長。其顯れとして著しきは
久保田眞先生は人間万久保田先生の産婦人科とし
事業が馬で。以前は中一流の産科病院の手餘し
々に波瀾が多く諸事業等に著も先生の技術には敬はれ
手を出し終生忘れぬこと人の喧々たる賞讃の聲に
の出来ない苦悩も嘗め心身見ても明なことである。
共々代表的醫家として赫々たる、故に物を決める際に一
の地位を確得する人だ。歩退て再考することが先生
先生の旺盛な點にあるであらう。

わが班の測量は 豊潤まで、終りた 建設費は百廿萬圓

平小鐵道測量班
田崎 主任 談

既報のごく鐵道省東京
建設事務所から派遣された
平小鐵道測量班の一行九名
は今日五日から測量に着手
素晴らしい活動を見せてゐ
るが第一班は平町郊外から
神谷村、中神谷の各部落
を経て夏井川を渡り、夏井
村山崎、菅波、荒田目を順
に調査して現在は下大越を
測量中である。

平製氷貯氷と能率

昨年の賣上げ百四十萬貫
本月末砕氷船廻航す

平製氷貯氷の需用期は七月から九月まで約百萬貫であるが本
年度は製氷期が早く、七月から八月にかけては製氷の能率如何と調査して
加はつてゐるが、測量班主任
田崎技手は語る。

農家救ひの雨

だがこれで足りるかどうか?

農家の非常時田圃農家
に必要の水が青くなく
てたお百姓さんに今朝二
時四十分からの降雨は再
生の喜びを興へてゐる。

散宿所 移轉

高久から薄磯へ

高久村下高久の二本松電氣
會社散宿所は今年より四倉
方面に遷移中止になつたの
で、散宿所を薄磯に移轉し

遠來の水戸商 警中、平商 を破る

平町の三夜様
身動きならぬ人出

遠征の水戸商業對警中六時から人が出盛り七時頃
學、平商業の野球戦は絶好は大通りへ身動きならぬ
の日和に恵まれて昨日三日賑はひで、見せ物、夜店等
は年前十一年より警中グラウンドで行はれたが地元軍は
何れも惜敗した。

ビール一本で 頓死

平町四丁目小林理髮店の
弟子林卯之助(三)は今日廿四
日午前一時頃平町南町を遊
び歩いてゐる中頓死した同
人は出かきビールを一本
飲んだと言はれるが心臓麻
痺らしい。

患者また退院

チラス收容成績良好

石城郡小名濱町字横町佐
々木修はチラス患者として
去日來隔離舎に收容されて
ゐたがその後の経過良好に
て六月廿二日午後一時余快
退院した。

豆ニユース

平町會は廿七日午前十時
から開かれ、戸數別賦課
額並びに區長、副區長改
選等を附議する

平町會は廿七日午前十時
から開かれ、戸數別賦課
額並びに區長、副區長改
選等を附議する

濱だより

(廿三日分)

小名濱 魚市場調査
魚名 魚獲高 單價割
カツラ 一萬七千六十一
タイ 三〇〇貫 廿一廿三
サバ 五〇箱 二圓二十錢
ノドコロ 八十貫 四十五
ガラ 百二十貫 五十五、五
アイナ 三十貫 八十五、九
ハモ 十貫 一一二
イワシ 八〇〇貫 四八錢
入港數
カツラ船
カンコ船
ハモ船
大船船
アグリ船
他陸送物なし
二五一六四

